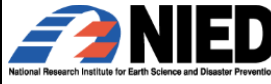


資料配布  
筑波研究学園都市記者会  
文部科学記者会  
科学記者会  
国土交通記者会  
国土交通省建設専門紙記者会



平成27年12月17日  
国立研究開発法人防災科学技術研究所  
国立研究開発法人土木研究所

防災科学技術研究所レジリエント防災・減災研究推進センターと土木研究所  
水災害・リスクマネジメント国際センターによる連携協定の締結について

## 1 概要

国立研究開発法人防災科学技術研究所レジリエント防災・減災研究推進センターと国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM、「アイ・チャーム」）は、平成27年12月16日（水）、連携協定を締結いたしました。これは、相互の包括的かつ持続的な連携協力を強化し、共同研究、提携事業等を実施するための枠組みを構築することにより、双方のノウハウ、技術、ネットワーク等を活用して研究成果の社会実装を推進し、国内外における防災・減災の向上に貢献することを目的としています。

## 2 背景

防災科学技術研究所（防災科研）は、昨年9月、内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「レジリエントな防災・減災機能の強化」（SIP 防災）の多くの課題において研究開発機関等に採択され、その推進のため、同年10月にレジリエント防災・減災研究推進センターを設置しました。SIP 防災では、防災・減災に関する研究開発成果の社会実装が強く求められると同時に、将来的な海外展開も視野に入れた取組が重要視されています。

一方、土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM）は、日本政府とユネスコの協定に基づき、ユネスコカテゴリー2センター（※）としてユネスコの後援を受け、平成18年3月に土木研究所の一部門として設立されました。設立以降、水関連災害リスクマネジメント分野の国際協力に豊富な実績を持ち、また海外からの研修生の受入などを通じて、防災実務者の国際的人材ネットワークを培ってきています。

こうした背景から、今般、レジリエント防災・減災研究推進センターとICHARMが相互に連携し、双方のノウハウ、技術、ネットワーク等を活用して、共同研究、提携事業等を実施するための枠組みを構築し、国内外における防災分野への貢献を推進するため、連携協定を締結いたしました。

※ユネスコカテゴリー2センターとは、ユネスコからは独立した組織ですが、ユネスコの協力機関として承認された機関のことです。

### 3 連携・協力事項

- (1) 災害リスクマネジメント
- (2) 災害関連情報の共有
- (3) 人材交流・人材育成
- (4) その他、必要と認める事項

### 4 締結名義

国立研究開発法人 防災科学技術研究所

レジリエント防災・減災研究推進センター長 藤原 広行

国立研究開発法人 土木研究所

水災害・リスクマネジメント国際センター長 小池 俊雄

### 5 有効期間

協定締結日（平成27年12月16日）から平成30年3月31日まで  
※1年間毎の更新が可能

### 6 締結風景



平成27年12月16日締結時の写真

〔右：防災科研レジリエント防災・減災研究推進センター長  
左：土木研究所 ICHARM センター長〕

### 7 参考

防災科学技術研究所ホームページ  
土木研究所 ICHARM ホームページ

<http://www.bosai.go.jp>

<http://www.icharm.pwri.go.jp>